

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672300381
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会
事業所名	グループホームかほく
訪問調査日	平成 19 年 6 月 12 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	672300381		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームかほく		
所在地 (電話番号)	山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1 (電話) 0237-71-1201		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年8月10日

【情報提供票より】(平成19年5月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨木造 造り	
	1階建ての 階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,800円 他、実費
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立河北病院、真木歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に病院や消防署がある安心できる地域の中にあり、敷地内の畑で草花や野菜を栽培したり、ホーム内に季節ごとの装飾品を飾ることにより、自然や季節を日々の暮らしの中で実感できるホームです。それぞれの利用者がしてきた仕事、趣味、好みのものを理解し、ホームの中でも同じような生活をできるだけ長く続けられ、その人らしさを失わない支援を心がけている、また、地域に積極的に出かけていくことによって、地域住民の理解と交流を深めてきたホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	使い慣れた家具などの居室への持ち込みが少なかった点について、家具の持ち込みを勧める意味を説明しても理解が得られない家族がいるものの、家具に限らず家族の写真などの持ち込みも見られ、その人らしい居室にしていることと努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や前回までの評価項目から変わった点について、職員に十分説明が行われていない状況がみられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政・地域包括支援センター所長・地区長・民生児童委員・家族代表・利用者代表で構成される運営推進会議が2ヶ月に1回開催されており、事業所の概要説明、近況報告、情報交換などを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員が家族の面会時等に現況を報告し、話しをする機会を設けている。また、家族の懇談会を開き、意見・不満・苦情を話してもらっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の催し物、買い物、散歩、老人会、お祭りに積極的に参加し、地域の一員であることを理解してもらいながら、地域連携を深めてきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念を基にして職員間で話し合いを持ちホームとしての地域密着型サービスの理念を考え、それをホールに掲げることで、利用者や職員に意識してもらう取り組みが見られる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールにホーム独自の理念・目標を掲げ、管理者をはじめ職員みんなが共有し実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催し物、買い物、散歩、老人会、お祭りに積極的に参加し、地域の一員であることを理解してもらいながら、地域連携を深めてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や前回までの評価項目から変わった点について、職員に十分説明が行われていない状況がみられる。	○	管理者を中心とし、全職員が評価の意義や活かし方について理解できるような取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括支援センター所長・地区長・民生児童委員・家族代表・利用者代表で構成される運営推進会議が2ヶ月に1回開催されており、事業所の概要説明、近況報告、情報交換などを行っている。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政の窓口に出向き、行政担当者とホーム職員が利用者の現況や今後の方向等を話しあうことにより、連携を深めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回の頻度でホーム内での暮らし等や金銭管理状況を家族に送って報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員が家族の面会時等に現況を報告し、話しをする機会を設けている。また、家族の懇談会を開き、意見・不満・苦情を話してもらうようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットごとに職員は固定しているが、どの職員でも適切な対応ができるように、全職員が利用者の状況を把握している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内部の研修や外部の研修及び職場内での研修に参加し、報告書の回覧や内容の報告会を開催している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内の同業者との交換研修や地域にある同業者との学習会に参加し、サービス向上に向けた取り組みをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人のことを知り、利用前にやってきたことを継続し楽しめるように取り組んでいる。また、それぞれの方に合わせた言葉づかいに配慮した関係構築がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれに担当職員を決めることにより、日常生活の関わりの中から本人の意向の把握を行い、ケース会議等で検討し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族等からの意向を確認し、毎月のケース会議で職員間で検討しながら計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と担当職員が話し合い、本人の状況の変化に合わせて介護計画の見直しをしている。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用時に本人及び家族の意向を確認し、かかりつけ医 を継続するか、協力医療機関に変更するかを決めて受 診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合は、職員と家族と一緒に医療機関を訪 ねて医師から説明を受け、今後の方針等を共有でき るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者それぞれに合う言葉づかひに配慮し、個人の記 録についても個人名が分からないよう収納してプライバ シーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、季節やその日の天候、 本人の体調、家族の面会等を考慮した臨機応変の対 応ができています。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食はあらかじめ献立を決めているが、夕食はその日のスーパー等のチラシ広告を見てから利用者と決めており、買い物や調理等も利用者と職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間等は設定せずに、利用者それぞれの意向に合わせて入浴することができ、利用者の意向に合わせた対応が可能な勤務体制にすることができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの「できることやできないこと」を把握し、食事作りや掃除、畑仕事等の役割がある。また、できない方にも声かけや見守り等を行い、楽しみながらその人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節、天候、本人の状況、家族の面会予定等に配慮しながら、短い時間でも外出するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	ホームの玄関や居室は、施錠せずに対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、日中のみならず夜間を想定した避難・誘導訓練を全職員で行っている。		

山形県 グループホームかほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常の食事を摂ることが難しい場合は、医師や家族とも相談しながら、利用者一人ひとりに合わせた食べやすい形態、タイミング、環境等を考えた食事の提供がなされており、チェック表を用いて食事摂取量や水分量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置し、その都度、空調を調整したり天窓を布で囲み光を和らげる等の配慮があり、掲示物や行事等の写真を飾り生活感が感じられるような工夫が見られる。また、利用者の自立支援を図るため職員で試行錯誤した結果、あえてそれぞれの食器に名前を明記し、利用者が配膳等で混乱しないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの状況に合わせ、床に畳を敷くこと、自宅から家具を持ち込むこと、家族の写真を飾ることをしており、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。		